

杉戸町立西小学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 杉戸町学力向上プロジェクト(共通実践5つの柱、授業スタンダード)に基づき日々の授業を充実させる。 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現する授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「総合学力調査」において全学年で全国平均を超える。 授業公開シートを活用した教員の相互授業参観(全職員2回ずつ) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「総合学力調査」において、全学年が全国平均を上回ることができなかった。 職員一人一人が2回の公開・研究授業を実施した。新採用教員が経験年数の多い教員の授業を見て学ぶ機会にもなり、授業力の向上と児童の学力向上につなげることができた。 児童の回答した成果指標10項目中、7項目についてプラスの伸びが見られた。「意見や発表を聞いて判断する」、「既習事項を新規学習事項に生かす」、「失敗を恐れず挑戦する」等の力を伸ばすことが課題である。 授業研究会では幼稚園、保育園の職員に参加していただくことができ、児童の姿から保幼小の連携の在り方を協議する基盤を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学習と協働的な学びの充実不可欠な学習スキルについて、授業の中での習得を個に応じて確実に言い、以降の学習活動の中での活用を積極的に図り、確実な定着を目指す。 2回の公開・研究授業の実施は引き続き来年度も継続する。実施日、実施単元の事前周知をし、互いに学び合える環境を整備していく。 協働的な学びの機会の充実、系統性を意識した指導計画の作成、児童が見通しをもって立てる学習計画づくりの充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 西小では、教員と児童が共に授業を作り上げており、昔の授業とは変化したことを感じる。 小学校の段階では、基礎学力をしっかり身に付けることが大切である。また、悩みながら、自分の考えを整理したり、自分の感情を表現したりという、人間として大切な部分について、今後も育んで欲しい。 キャリア教育、昔の道具体験、ベースボール教室などの多様な体験活動が大変良い。児童にとって体で覚えることができる素晴らしい機会となっている。
	すすんで学びすすんで実行できる児童(SRPDCAサイクルを回せる児童)の育成	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を核としながら、児童のメタ認知の力を育て、自立して学ぶ力を育成するための授業改善を行う。 幼保小中で連携した学びの在り方について研究・提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修成果指標において、「できる」と答える児童の割合に伸びが見られる。 授業研究会の際、幼保中に授業を公開する。(年2回) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに縦割り活動を実施した。協力することの大切さを理解し、お互いに思いやる心を育むことができた。 授業公開で道徳を選択し、互いに学び合う機会をもった。授業研究をととして、指導力向上を目指したい。 12月の人権集会に向け、人権標語や人権作文の作成、発表をとおし、人権意識の向上を図ることができた。 各学年が、主として総合的な学習の時間で外部指導者を招聘したり、本校以外の児童生徒と学習交流をしたりし、多様な人材を活用しての学びを推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の向上を目指すため、特別活動を中心に次の重点目標にそって改善を図る。 学級での自己表現の機会を増やす 協力し合える人間関係を築く 学校行事で成功体験を重視した指導をする 児童が主体的に関わる場を設定する 今年度の交流の効果と要した時間や手続きを整理し、年度を超えても継続して実施することができるよう実施計画を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートで、保護者と児童の差異が見られる部分の一つに「言葉遣い」が挙げられる。児童は、先生や友達には丁寧な言葉遣いができているということなのではないだろうか。「使い分けができる」ということも、言葉遣いの一つである。 西小での教育を通し、「全校鬼ごっこ」など、児童自身の力で何かを成し遂げようとする力が育ってきている。 今後も、指導すべき点はしっかりと児童に伝えながら、個々の児童の力を伸ばしていってほしい。
豊かな心	豊かな心を育み人権を尊重した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を醸成するため、自他尊重を基盤とした学級経営を行う。 多様な人材との交流や体験活動を通じて視野を広げ、感受性や協調性の伸長を図る。 道徳教育を基盤とし、人権感覚を育成するためのカリキュラムマネジメントを行う。 学校の全教育活動をととして児童の学びを支援し、不登校の未然防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り活動の実施(年4回) 道徳授業研究会の実施(年1回) 人権集会の実施(年1回) 豊かな体験活動及びゲストティーチャーを招聘した授業の実施(各学年1回以上) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに縦割り活動を実施した。協力することの大切さを理解し、お互いに思いやる心を育むことができた。 授業公開で道徳を選択し、互いに学び合う機会をもった。授業研究をととして、指導力向上を目指したい。 12月の人権集会に向け、人権標語や人権作文の作成、発表をとおし、人権意識の向上を図ることができた。 各学年が、主として総合的な学習の時間で外部指導者を招聘したり、本校以外の児童生徒と学習交流をしたりし、多様な人材を活用しての学びを推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の向上を目指すため、特別活動を中心に次の重点目標にそって改善を図る。 学級での自己表現の機会を増やす 協力し合える人間関係を築く 学校行事で成功体験を重視した指導をする 児童が主体的に関わる場を設定する 今年度の交流の効果と要した時間や手続きを整理し、年度を超えても継続して実施することができるよう実施計画を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートで、保護者と児童の差異が見られる部分の一つに「言葉遣い」が挙げられる。児童は、先生や友達には丁寧な言葉遣いができているということなのではないだろうか。「使い分けができる」ということも、言葉遣いの一つである。 西小での教育を通し、「全校鬼ごっこ」など、児童自身の力で何かを成し遂げようとする力が育ってきている。 今後も、指導すべき点はしっかりと児童に伝えながら、個々の児童の力を伸ばしていってほしい。
	家庭と連携した健康で安全な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた健康教育を実施する。 家庭や関係機関と連携し、計画的な保健行事を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭やゲストティーチャーによる健康教育の実施。(各学年1回以上) むし歯治療率100% 学校保健委員会の実施(年2回) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士、保健センター職員、健康食品製造メーカーからの講師を招聘し、発達段階に応じた健康教育を実施した。 虫歯治療率は92.6%であった。 学校保健委員会は年間2回実施した。学校医、学校薬剤師から児童の健康に関する講話をいただき、学校からは保健室の利用状況や体力向上のための取組を報告した。児童の健康課題の解決に向けて学校、家庭、地域が協力していくことを確認し合うことができた。 春から秋にかけて、新体力テストの記録向上者数は概ね50%以上の向上が見られた。 「体育の授業が好き」「体育の授業は楽しい」と回答した児童は90%を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も今年度の取組を継続して行っていく。 効果のあった取組については、教員間で指導法や支援のポイント等を共有し、校内研修で取り上げ、全校で取り組めるよう組織的に推進する。 次年度もすこやかタイムの効果的な実施と、長縄記録会を実施し、さらなる体力向上とすすんで運動できる児童の育成を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業でも児童は楽しくのびのびと学習している。スポーツの力は、個々によって差があるものだが、教員がその差に気を付けながら声を掛け、授業を行っていた。 夏場の体育館は暑いので、空調が入るとよい。 体力向上のため、問題点を洗い出し、対策したことで体力の向上を図っていることが素晴らしい。
健やかな体	児童の運動量の確保と体力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果から課題を明確にし、全校で課題解決への取組を行う。 体育の授業での運動量(活動時間)を十分に確保し、運動好きな児童を育成する。 長縄跳びに年間通して取り組むことで体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テスト A+Bの合計50%以上 授業1単位時間における活動時間30分以上の確保 「体育の授業が好き」「体育の授業は楽しい」の割合90%以上 	A	<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士、保健センター職員、健康食品製造メーカーからの講師を招聘し、発達段階に応じた健康教育を実施した。 虫歯治療率は92.6%であった。 学校保健委員会は年間2回実施した。学校医、学校薬剤師から児童の健康に関する講話をいただき、学校からは保健室の利用状況や体力向上のための取組を報告した。児童の健康課題の解決に向けて学校、家庭、地域が協力していくことを確認し合うことができた。 春から秋にかけて、新体力テストの記録向上者数は概ね50%以上の向上が見られた。 「体育の授業が好き」「体育の授業は楽しい」と回答した児童は90%を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も今年度の取組を継続して行っていく。 効果のあった取組については、教員間で指導法や支援のポイント等を共有し、校内研修で取り上げ、全校で取り組めるよう組織的に推進する。 次年度もすこやかタイムの効果的な実施と、長縄記録会を実施し、さらなる体力向上とすすんで運動できる児童の育成を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業でも児童は楽しくのびのびと学習している。スポーツの力は、個々によって差があるものだが、教員がその差に気を付けながら声を掛け、授業を行っていた。 夏場の体育館は暑いので、空調が入るとよい。 体力向上のため、問題点を洗い出し、対策したことで体力の向上を図っていることが素晴らしい。
	学校の教育力向上のための「働き方改革」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務の在り方について見直しを行い、教職員の健康を守り、働きやすい職場づくりを推進するとともに、児童にとってよりよい学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムの活用や会議の精選により、放課後に学年の打合せや教材研究に充てる時間を確保した。職員が計画的に業務を行うことで、年間超過勤務時間の全体平均は360時間以内になる見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が学級・学年経営や授業準備に充てる時間を確保し、児童への教育効果を高められるよう、情報端末機器の効果的な活用を図る。また、教員相互の連絡、相談が円滑に行えるよう職場環境を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員それぞれが「やりがい」を感じられるよう、労務環境を整えることが「働き方改革」では重要である。 児童に向かう教職員の心身の健康がとても大切であるため、学校運営上での一層の工夫をお願いしたい。 支援員等の補助的な役割をする方が増員されるとよいと思う。